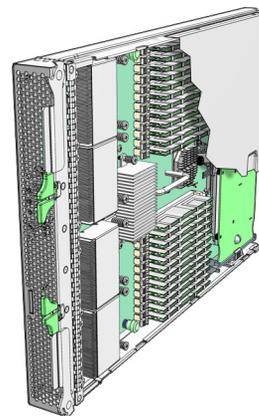


# Sun Blade™ X6450 サーバーモジュール オペレーティングシステム インストールガイド

---



Sun Microsystems, Inc.  
www.sun.com

部品番号 820-5618-10  
2008年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

この配布物には、サードパーティによる情報が含まれることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Sun™ ONE Studio、Sun Blade X6450 Server Module、Sun StorageTek™ RAID Manager ソフトウェア、および Sun の会社ロゴマークは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel® Xeon® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel Inside® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに vii

**1. 概要 1**

サーバーモジュールへの OS のインストール 2

準備すべき事柄 2

決定すべき事柄 3

次の作業 4

ディスクレスサーバーについて 5

ドングルケーブルの接続 5

**2. Sun Installation Assistant の使用 7**

Sun Installation Assistant (SIA) について 7

機能と利点 8

SIA によるインストールの準備 9

**3. Red Hat Enterprise Linux OS のインストール 11**

インストールの概要 12

開始前のご注意 12

Sun Installation Assistant 12

RHEL のインストールと管理ドキュメント 13

配布メディアからの RHEL OS のインストール	14
必要なアイテム	14
▼ RHEL をローカルメディアからインストールする	15
リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール	15
▼ リモートコンソールアプリケーションを使用して RHEL をインストールする	16
PXE サーバーからの RHEL OS のインストール	17
開始前のご注意	17
▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする	17
RHEL オペレーティングシステムのアップデート	18
▼ RHEL オペレーティングシステムをアップデートする	18
サーバー固有のソフトウェアのアップデート	18
▼ SSRTM をインストールする	19
▼ AST2000 ドライバをインストールする	19

#### 4. SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムのインストール 21

開始前のご注意	22
Sun Installation Assistant	22
SUSE Linux のインストールと管理ドキュメント	23
SUSE Linux のインストール方法	24
配布メディアからの SUSE Linux OS のインストール	24
必要なアイテム	24
▼ SUSE Linux をローカルメディアからインストールする	25
リモートコンソールアプリケーションによる SUSE Linux OS のインストール	25
▼ リモートコンソールを使用して SUSE Linux をインストールする	26
PXE サーバーからの SUSE Linux OS のインストール	27
開始前のご注意	27
▼ PXE サーバーから SUSE Linux をインストールする	27

SUSE Linux オペレーティングシステムのアップデート	28
▼ SUSE Linux オペレーティングシステムをアップデートする	28
サーバー固有のソフトウェアのアップデート	29
▼ SSRTM をインストールする	29
▼ AST2000 ドライバをインストールする	30
<b>5. VMware ESX のインストール</b>	<b>31</b>
VMware ESX 3 インストールの作業マップ	32
VMware のインストールと管理ドキュメント	32
VMware ESX のインストール要件	33
VMware ESX ISO イメージのダウンロード	33
▼ VMware ESX ISO イメージをダウンロードする	33
CD-ROM からの VMware ESX のインストール	34
▼ ローカル CD-ROM から VMware ESX をインストールする	34
VMware ESX のアップデート	35
<b>6. Solaris 10 OS のインストール</b>	<b>37</b>
開始前のご注意	37
最低システム要件	38
その他のソフトウェア情報	38
インストール方法	39
Solaris 10 関連の情報の場所	40
Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ	40
Solaris OS をインストールする準備	41
インストールの前提条件	42
GRUB 環境でのサーバーのブート	43
PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート	43
開始前のご注意	43
▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする	44

配布メディアからの Solaris OS のインストール	44
開始前のご注意	44
▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする	45
シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール	45
開始前のご注意	45
▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする	46
索引	49

# はじめに

---

本書『Sun Blade X6450 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーモジュールにオペレーティングシステムをインストールする手順を詳しく説明します。

---

## 製品のアップデート

ダウンロードが可能な Sun Blade X6450 サーバーモジュール製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp>

このサイトでは、ファームウェアとドライバ、および CD-ROM ISO イメージのアップデートが提供されています。

---

## 関連ドキュメント

Sun Blade X6450 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6450>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Solaris™ および他のドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com>

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの構成など、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドに関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- <http://docs.sun.com> に掲載されている Solaris<sup>™</sup> オペレーティングシステムのドキュメント

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	<code>dir</code> を使用してすべてのファイルを表示します。
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> <b>ipconfig</b> Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、 <code>del &lt;ファイル名&gt;</code> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6450 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-5618-10



## 概要

---

この章では、Sun Blade X6450 サーバーモジュールにオペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。Sun Blade X6450 はさまざまなオペレーティングシステムをサポートしており、各オペレーティングシステムに複数のインストール方法があります。本書では、サポートされている Solaris、Linux、および VMware オペレーティングシステムのためのインストール手順を説明します。

---

**注** – Sun Blade X6450 サーバーモジュールに Windows サーバーオペレーティングシステムをインストールする場合は、『Sun Blade X6450 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

---

この章には次の節があります。

- 「サーバーモジュールへの OS のインストール」(2 ページ)
- 「次の作業」(4 ページ)
- 「ディスクレスサーバーについて」(5 ページ)
- 「ドングルケーブルの接続」(5 ページ)

---

# サーバーモジュールへの OS のインストール

サーバーモジュールに OS をインストールする前に、準備すべき事柄と決定すべき事柄について理解するために次のセクションを参照してください。

## 準備すべき事柄

次の手順を完了してから、インストールを開始する必要があります。

- サーバーハードウェアを設置します。
- (省略可) サービスプロセッサを構成します
- 起動ディスクデバイスを含むネットワークハードウェアをインストールおよび構成します。
- (省略可) BIOS で起動デバイスを構成します。

---

**注** – ネットワークハードウェアの概要と起動デバイスの構成手順については、『Sun Blade X6450 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。

---

- IP アドレスおよびネットマスクなどの必要な情報を収集します。
- (Linux のみ) ドライバ CD を作成するか、Sun™ Installation Assistant (SIA) を使用します。SIA を使用することを推奨します。

使用している Linux OS のドキュメントを参照してください。SIA の詳細については、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』と

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp> を参照してください。

# 決定すべき事柄

また、次の事項を決める必要があります。

## 1. インストールするオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	説明
Solaris オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"><li>• Solaris 10 11/06 OS</li></ul>
Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステム (RHEL)	<ul style="list-style-type: none"><li>• RHEL5 以降、64 ビット版のみ</li><li>• バージョン 4.6 以降、32 ビット版と 64 ビット版</li></ul>
SUSE Linux Enterprise Server (SLES)	<ul style="list-style-type: none"><li>• SLES9SP4 以降、64 ビット版のみ</li><li>• SLES10SP1 以降、64 ビット版のみ</li></ul>
VMware ESX	<ul style="list-style-type: none"><li>• ESX 3.0.2 u1 以降</li><li>• ESX 3.5</li></ul>

**注** – Windows オペレーティングシステムをインストールする場合は、『Sun Blade X6450 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

## 2. ディスクレスブートのためのサーバー構成

オペレーティングシステム	ディスクレス構成関連文書
Solaris 10	「Solaris 10 OS のインストール」(37 ページ)、または『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』( <a href="http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323">http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323</a> ) を参照してください。
Red Hat Linux	『Red Hat Enterprise Linux System Administration Guide (Red Hat Enterprise Linux システム管理ガイド)』( <a href="https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">https://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a> ) を参照してください。
VMware ESX	<a href="http://www.vmware.com/support/pubs/">http://www.vmware.com/support/pubs/</a> を参照してください。

### 3. インストールする方法

方法	Solaris	Red Hat	SLES	VMware
USB 接続の外部 CD/DVD ドライブを介して、サーバー上の配布メディア (CD/DVD) からインストール	はい	はい	はい	はい
キーボード、ビデオ、およびモニタースイッチ (KVMS) を介して配布メディア (CD/DVD) からインストール	はい	はい	はい	はい
Preboot Execution Environment (PXE) を使用してネットワークからインストール	はい	はい	はい	はい

**注** – Sun Blade X6450 サーバーモジュールには、業界標準の KVMS デバイスを、USB ポートまたは Embedded Lights Out Manager (ELOM) リモートコンソールアプリケーションを使って接続できます。USB 接続をシステムにセットアップする手順は、サーバーハードウェアに関するドキュメントを参照してください。ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用した、サーバーへのリモート KVMS 接続設定の詳細については、『*Sun Blade X6450 Embedded Lights Out Manager Administration Guide* (Sun Blade X6450 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』を参照してください。

### 4. オペレーティングシステムおよびドライバのアップデートの必要の有無

通常は、オペレーティングシステムのインストール後に、アップデートが必要になります。アップデートについては、インストールする OS の章を参照してください。

## 次の作業

本書の各章では、インストールについての詳細情報を説明しています。関連手順については、使用している OS に該当する章を本書で参照してください。

また、オペレーティングシステムに関するインストール、管理、および構成に関するドキュメントも揃えておいてください。これらのドキュメントは通常、マニュアル冊子として配布メディアに付属しているか、メディアに PDF ファイルとして含まれています。多くの場合、最新版のドキュメントは、OS ベンダーの Web サイトからダウンロードできます。

---

## ディスクレスサーバーについて

Sun Blade X6450 はディスクレスサーバーです。つまり、ローカルディスクが装備されていないため、オペレーティングシステムをローカルディスクにインストールすることはできません。

ディスクがローカルにあるかのようにアクセスできるオプションがいくつかあります。そのほとんどでは、オペレーティングシステムをインストールする前に、ハードウェア構成が必要です。

追加ハードウェアが必要な構成では、オペレーティングシステムをインストールする前にハードウェアを装着する必要があります。また、起動デバイスを BIOS で構成する必要がある場合もあります。

- プロセスの概要と、BIOS で起動デバイスを構成する手順については、『Sun Blade X6450 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。
- ハードウェアの詳細は、ハードウェアに付属するドキュメントを参照してください。

---

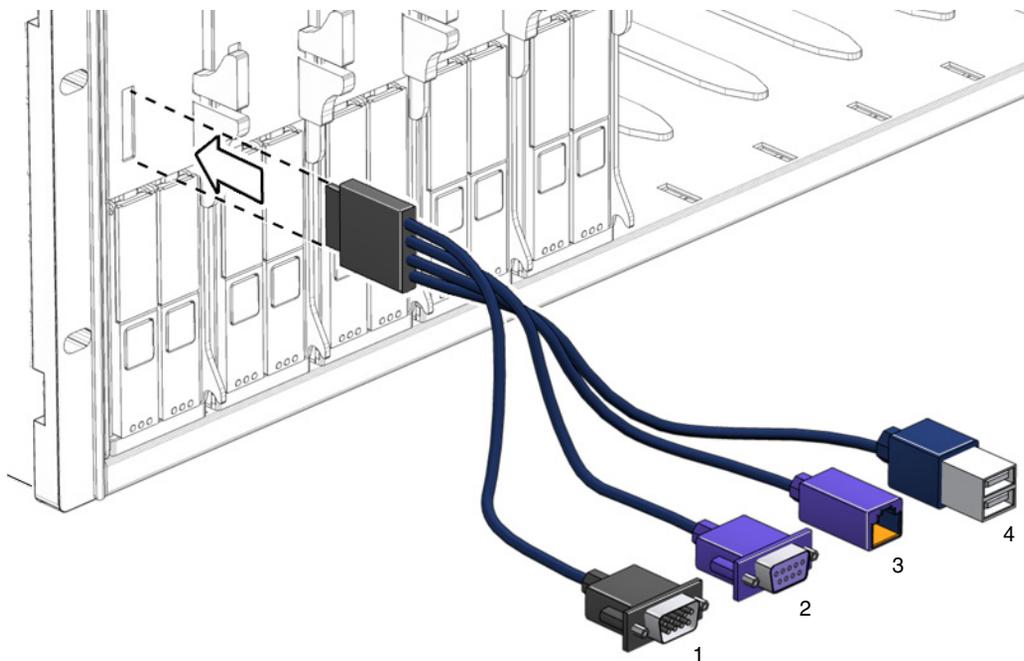
## ドングルケーブルの接続

ローカルインストールを選択した場合は、ドングルケーブルをサーバーモジュールに直接接続する必要があります。

ドングルケーブルの接続方法を [図 1-1](#) に示します。

1. USB ハブをドングルの USB コネクタの 1 つに接続します。
2. キーボード、マウス、CD ドライブを USB ハブまたはもう一方の USB コネクタに接続します。
3. モニターを VGA ポートに接続します。

図 1-1 ドングルケーブルの接続



各部の説明

- 1 DB9 シリアルコンソールからサーバーモジュール ELOM  
注 - このコネクタは、3 コネクタドングルにはありません。
- 2 VGA ビデオコネクタ
- 3 RJ-45 コネクタ
  - 3 コネクタドングルでは、このコネクタは ELOM へのシリアルアクセスを提供します。
  - 4 コネクタドングルでは、このコネクタは使用しません。
- 4 デュアル USB コネクタ

## Sun Installation Assistant の使用

---

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) を使用してオペレーティングシステムをインストールするときのオプションについて説明します。SIA を使用して、Linux オペレーティングシステムをサーバーにインストールできます。

---

### Sun Installation Assistant (SIA) について

Sun Installation Assistant (SIA) は、サポートされている Linux オペレーティングシステム (OS) のインストールに役立つツールです。SIA を使用すると、SIA メディアをブートしてプロンプトに従うだけで OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加のシステムソフトウェアをインストールできます。

SIA によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。OS ベンダーのインストール手順に従う必要がありますが、システムハードウェアの目録作成、Sun がサポートする最新デバイスドライバの検索とダウンロード、個別ドライバ CD の作成などを行う必要はありません。これらの作業は SIA が実行します。

---

## 機能と利点

SIA には、次のような機能と利点があります。

- サーバーに接続されたローカルドライブ (CD/DVD または USB フラッシュドライブ)、リモートのリダイレクトされたネットワークドライブ (仮想 CD-ROM または ISO イメージ)、または PXE ネットワーク起動からの起動メディア。
- プラットフォームハードウェアおよびインストールされているオプションカードの確認。
- オペレーティングシステムメディアおよびシステムで必要なサポートされているデバイスドライバの確認。

SIA には、オペレーティングシステムソフトウェアは付属していません。SIA のインストール時に、オペレーティングシステムソフトウェアを用意しておく必要があります。

- プラットフォームがサポートする起動メディア (ハードディスク、コンパクトフラッシュ) へのオペレーティングシステムのインストールの支援。
- Sun でサポートされている最新の OS レベルデバイスドライバ、およびシステムで必要なシステムソフトウェアのインストール (必要な場合)。
- サポートされているサーバー上のサーバー BIOS およびサービスプロセッサ (SP) ファームウェアをアップグレードするオプション。
- Linux ベースの PXE サーバーからの、サポートされている Linux OS のスクリプトベースの SIA を使用した無人インストール。
- インストール中にエラーや予期しない条件が発生した場合に表示される、わかりやすいエラーメッセージ。
- 新規にインストールされたサーバーの /root にあるイベントログファイルを必要に応じて容易に使用可能。

---

# SIA によるインストールの準備

SIA を使用してインストールを開始するときは、次の説明を参照してください。

- サポートされている Sun サーバプラットフォームの詳細なリストについては、次のサイトの SIA 情報のページを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

- Sun Installation Assistant CD は、x64 プロセッサアーキテクチャをサポートするほとんどの Sun サーバに付属しています。次のサイトの Sun のダウンロードページから、Sun Installation Assistant の最新 ISO CD イメージをダウンロードすることもできます。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

SIA プログラムのアップデートは、SIA のインストール中に、SIA のリモートアップデートオプションを使用して簡単に取得できます。

- サーバでの SIA の使用については、『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3557) を参照してください。このユーザーズガイドは次の Sun ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com>



## Red Hat Enterprise Linux OS のインストール

---

この章では、Sun Blade X6450 サーバーモジュールに Red Hat Enterprise Linux (RHEL) オペレーティングシステムをインストールする手順を説明します。RHEL ソフトウェアを他の Intel サーバーにインストールしたことがある場合は、Sun Blade X6450 サーバーモジュールにも同様の方法でインストールできます。

この章では、サーバーモジュールに RHEL OS をインストールする 3 つの方法について説明します。

- ローカル CD-ROM 内の RHEL 配布 CD からインストールする
- ELOM のリモートコンソールアプリケーションを使用してアクセスするリモート CD-ROM 内の RHEL 配布 CD からインストールする
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージ、またはネットワーク上に格納されたその他イメージからインストールする

この章には次のセクションがあります。

- 「インストールの概要」(12 ページ)
- 「開始前のご注意」(12 ページ)
- 「配布メディアからの RHEL OS のインストール」(14 ページ)
- 「リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール」(15 ページ)
- 「PXE サーバーからの RHEL OS のインストール」(17 ページ)
- 「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」(18 ページ)
- 「サーバー固有のソフトウェアのアップデート」(18 ページ)

---

# インストールの概要

RHEL ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. RHEL ソフトウェアをインストールします。次のいずれかの節を参照してください。
  - 「配布メディアからの RHEL OS のインストール」 (14 ページ)
  - 「リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール」 (15 ページ)
  - 「PXE サーバーからの RHEL OS のインストール」 (17 ページ)
2. RHEL ソフトウェアをアップデートします。「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」 (18 ページ) を参照してください。
3. サーバー固有のソフトウェアをアップデートします。「サーバー固有のソフトウェアのアップデート」 (18 ページ) を参照してください。

---

## 開始前のご注意

このセクションでは、RHEL 用の参照情報を説明します。

### Sun Installation Assistant

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに Linux のサポートされているバージョンをインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。オペレーティングシステムに付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。SIA の詳細については、第 2 章と『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』 (820-3557) および <http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp> を参照してください。

# RHEL のインストールと管理ドキュメント

RHEL ソフトウェアをインストールする前に、次の RHEL ドキュメントを参照してください。

表 3-1 RHEL の関連ドキュメント

ドキュメント名	説明	入手場所
README ファイル	ご使用の RHEL ソフトウェアバージョンのシステム要件およびシステム構成についての最新情報が含まれています。	RHEL CD1、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/">http://www.redhat.com/docs/</a>
<i>Red Hat Enterprise Linux Quick Installation Guide</i> (Red Hat Enterprise Linux クイックインストールガイド)	RHEL のインストールに役立つ情報を含む簡易ガイドの印刷版です。	RHEL 配布メディアに含まれています。
<i>Red Hat Enterprise Linux インストールガイド</i>	印刷版クイックインストールガイドの完全版です。	Red Hat ドキュメント CD、および次のサイトから取得できます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-4-Manual/ja/</a>
<i>Red Hat Enterprise Linux システム管理入門ガイド</i>	RHEL システム管理者のための入門情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>
<i>Red Hat Enterprise Linux System Administration Guide</i> (Red Hat Enterprise Linux システム管理ガイド)	RHEL ソフトウェアをカスタマイズするための情報です。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>
<i>System Administration for Diskless Booting</i> (ディスクレスブートのシステム管理)	サーバーと Red Hat Linux をディスクレスでブートするための構成情報です。	<a href="http://www.jp.redhat.com/support/doc/">http://www.jp.redhat.com/support/doc/</a> から『x86、Itanium™、及び AMD64 アーキテクチャ用インストールガイド』をダウンロードできます。
<i>Red Hat Enterprise Linux セキュリティガイド</i>	RHEL ソフトウェアのセキュリティに関するガイドです。	次のサイトからダウンロードできます。 <a href="http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/">http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/</a>

次の表で、インストール作業と関連手順を確認します。

表 3-2 インストール作業と手順

インストール作業	参照手順
Sun Installation Assistant を使用してインストールする。	<i>Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)</i>
ローカルの CD/DVD ドライブから RHEL をインストールする。	<a href="#">「配布メディアからの RHEL OS のインストール」(14 ページ)</a>
リモートコンソールを使用してリモートの CD/DVD ドライブから RHEL をインストールする。	<a href="#">「リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール」(15 ページ)</a>
PXE サーバーから RHEL をインストールする。	<a href="#">「PXE サーバーからの RHEL OS のインストール」(17 ページ)</a>
RHEL ソフトウェアをアップデートする。	<a href="#">「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」(18 ページ)</a>

## 配布メディアからの RHEL OS のインストール

RHEL には、オペレーティングシステムをインストールおよび構成するために、テキストモード、および使いやすいグラフィカルインターフェースが用意されています。boot プロンプトで、使用するインターフェースを選択できます。このセクションでは、両方のオプションについて説明します。

### 必要なアイテム

配布メディアからインストールするには、次のアイテムが必要です。

- 次のデバイスが搭載された Sun Blade X6450 サーバーモジュール
  - USB 接続のキーボードおよびマウス
  - USB CD/DVD
  - モニター
  - サーバーモジュールの前面スロットに差し込むドングルコネクタ
  - ドングルコネクタの代わりに、[「リモートコンソールアプリケーションを使用して RHEL をインストールする」\(16 ページ\)](#)の説明に従い、KVMS セッションを使用して、このインストールをリモートで実行できます。
- RHEL メディア CD セット

## ▼ RHEL をローカルメディアからインストールする

1. ドングルの USB ポートに USB CD/DVD ドライブを接続します。
2. サーバーモジュールに接続された DVD/CD ドライブに RHEL 配布 CD 1 を挿入します。
3. システムの電源を入れます。
  - a. POST 中に F8 キーを押します。  
起動デバイスリストが表示されます。
  - b. 起動デバイスリストから「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。  
サーバーが CD からブートされ、boot: プロンプトが表示されます。
4. boot プロンプトで、次のいずれかを選択します。
  - テキストモードの場合は、次のコマンドを入力します。  
boot: **linux text**
  - グラフィカルモードを使用する場合は、Enter キーを押します。
5. これ以降のインストール作業については、『Red Hat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。
6. オペレーティングシステムをアップデートします。  
「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」(18 ページ) を参照してください。  
挿入した CD がインストール中に認識されない場合は、『Sun Blade X6450 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

---

## リモートコンソールアプリケーションによる RHEL OS のインストール

この節では、ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、サーバーに RHEL オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、RHEL 4 U6 以降の OS をインストールするには、次の手順に従います。

---

**注** – 次の手順を実行する前に、『Sun Blade X6450 Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Sun Blade X6450 Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』をお読みください。このドキュメントでは、ELOM サービスプロセッサの Web GUI を使用してコンソールをリダイレクトする方法を詳しく説明します。

---

## ▼ リモートコンソールアプリケーションを使用して RHEL をインストールする

1. RHEL のインストール CD/DVD を用意するか、これに相当する iso イメージを検索します。
2. ELOM サービスプロセッサの Web GUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
4. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
5. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
6. CD/DVD のリダイレクトを開始します。

JavaRConsole の「Storage/Mount Device (ストレージ/マウントデバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法は、次の 2 とおりあります。

- リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
- リモートコンソールにインストールされている ISO イメージを使用する場合は、「ISO Image (ISO イメージ)」を選択し、ISO ファイルの場所を指定します。

7. ELOM Web GUI からサーバーの電源を入れます。
8. 次のように BIOS セットアップを行います。
  - a. BIOS のブート中に F8 キーを押して、BBS ポップアップを表示します。  
起動デバイスリストが表示されます。
  - b. 起動デバイスとして「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。
9. boot プロンプトが表示されたら、**linux text** と入力します。
10. インストール前に CD メディアをテストするプロンプトが表示されたら、メディアのテストを実行しない場合は「Skip (スキップ)」を選択します。
11. インストールを続けます。  
これ以降のインストール作業については、『Red Hat Enterprise Linux インストールガイド』を参照してください。

---

# PXE サーバーからの RHEL OS のインストール

ここでは、PXE/DHCP サーバーからブートイメージファイルをダウンロードする要求を発行するようにサーバーモジュールを構成する方法と、サーバーモジュールに RHEL のブートイメージをインストールする方法を説明します。

## 開始前のご注意

PXE サーバーから RHEL をインストールするようにサーバーを構成する前に、次の作業を実行する必要があります。

- PXE サーバーに対応するように Linux ネットワークを構成します。Red Hat Linux のドキュメントを参照してください。
- Linux PXE サーバーに RHEL イメージをインストールします。

## ▼ PXE サーバーから RHEL をインストールする

1. サーバーモジュールを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、サーバーモジュールの電源を入れます。
2. POST 中に F12 キーを押します。  
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
3. プロンプトが表示されたら、F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、PXE サーバーに RHEL イメージをインストールしたときにイメージに付けたラベルを入力します。  
RHEL インストールイメージが、インストール先のサーバーモジュールにダウンロードされます。
5. RHEL メディアキットに付属のマニュアルを参照し、使用しているサーバーに合わせて Linux オペレーティングシステムを構成してください。
6. オペレーティングシステムファイルを更新します。  
[「RHEL オペレーティングシステムのアップデート」\(18 ページ\)](#) を参照してください。

---

# RHEL オペレーティングシステムの アップデート

ここでは、RHEL オペレーティングシステムのアップデート方法を説明します。

ソフトウェアは常にアップデートされるため、配布メディアに収録されているオペレーティングシステムが最新バージョンでない場合があります。

オペレーティングシステムのインストール後にこの手順を実行します。

## ▼ RHEL オペレーティングシステムを アップデートする

1. Red Hat の Web サイトにアクセスします。

<http://rhn.redhat.com>.

2. 手順に従って、RHEL オペレーティング システムをアップデートします。

この Web サイトに企業アカウント情報を使ってログインし、アップデートされた ISO イメージをダウンロードします。企業アカウントとは、RHEL メディアキットを購入後に Red Hat のサポートネットワークにアクセスするときに、顧客自身が作成するアカウントです。

---

# サーバー固有のソフトウェアの アップデート

この節では、Tools and Drivers CD からサーバー固有のソフトウェアをインストールする方法を説明します。

次の手順では、RHEL OS とアップデートがすでにインストールされていることを前提としています。

ファイルはすべて Tools and Drivers CD に収録されています。

次のアップデートが含まれます。

- Sun StorageTek™ RAID Manager (SSTRM)
- AST2000 ドライバ

## ▼ SSRTM をインストールする

1. 次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/linux/tools/SSRTM/ 名前
```

名前は、32 ビット版の場合は x86、64 ビット版の場合は x86\_64 です。

2. 次のコマンドを入力します。

- 32 ビット版の場合：

```
rpm -ihv StorMan-5.30.i386.rpm
```

- 64 ビット版の場合：

```
rpm -ihv StorMan-5.30.x86_64.rpm
```

## ▼ AST2000 ドライバをインストールする

1. 次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/linux/drivers/video
```

```
cp lxdrv.tar.gz /tmp
```

```
tar -zxf /tmp/lxdrv.tar.gz
```

2. README.txt に記載されている手順に従って、ドライバをインストールします。



# SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムの インストール

---

この章では、Sun Blade X6450 サーバーモジュールに SUSE Linux Enterprise オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順を説明します。サーバーに SUSE Linux OS をインストールする方法は、次の 3 とおりあります。

- ローカル CD-ROM ドライブ内の配布 CD からインストールする
- ELOM のリモートコンソールアプリケーションを使用してアクセスするリモート CD-ROM ドライブ内の配布 CD からインストールする
- ローカルネットワーク上の PXE サーバーに格納された Preboot Execution Environment (PXE) イメージ、またはネットワーク上に格納されたその他イメージからインストールする

この章には次のセクションがあります。

- 「開始前のご注意」 (22 ページ)
- 「配布メディアからの SUSE Linux OS のインストール」 (24 ページ)
- 「リモートコンソールアプリケーションによる SUSE Linux OS のインストール」 (25 ページ)
- 「PXE サーバーからの SUSE Linux OS のインストール」 (27 ページ)
- 「SUSE Linux オペレーティングシステムのアップデート」 (28 ページ)
- 「サーバー固有のソフトウェアのアップデート」 (29 ページ)

---

## 開始前のご注意

この節では、SUSE Linux のサポートされているバージョンに関する情報を提供します。次のバージョンがサポートされています。

- SLES9SP4 以降、64 ビット版のみ
- SLES10SP1 以降、64 ビット版のみ

## Sun Installation Assistant

Sun Installation Assistant (SIA) は、サーバーに Linux のサポートされているバージョンをインストールする際に役立つ、便利なフロントエンドアプリケーションです。オペレーティングシステムに付属している標準インストールユーティリティと手順を補足するもので、それに代わるものではありません。SIA の詳細については、[第 2 章](#)と『*Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide* (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3557) および <http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp> を参照してください。

# SUSE Linux のインストールと管理ドキュメント

表 4-1 は、サーバーに SUSE Linux をインストールする際に役立つリソースのリストです。

表 4-1 インストールのリソース

ドキュメント名	説明	入手場所
README ファイル	システム要件およびシステム構成についての最新情報が含まれています。	SUSE Linux CD 1 に収録されています。
リリースノート	配布 CD 上の SLES バージョンのリリースに関する最新情報が含まれています。	SUSE Linux CD 1 の docu ディレクトリに収録されています。
<i>SUSE Linux Enterprise Server 10 Start-Up Guide</i> (SUSE Linux Enterprise Server 10 スタートアップガイド)	SLES のインストール手順を簡単に説明したマニュアルです。	ファイル名は startup.pdf で、SLES 10 CD 1 の docu ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
<i>SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide</i> (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)	SLES 10 の計画、配備、構成、管理について詳しく説明しています。	ファイル名は sles-admin.pdf で、SLES 10 CD 1 の docu ディレクトリの該当する言語ディレクトリにあります。
<b>注</b> - SLES 9 については、対応するドキュメントを参照してください。		
SUSE Linux サポート サイト	Enterprise Server OS に関する技術情報と製品サポート情報を参照できます。	<a href="http://www.novell.com/products/server/">http://www.novell.com/products/server/</a>

# SUSE Linux のインストール方法

次の表で、インストール作業と関連手順を確認します。

表 4-2 インストール作業と手順

インストール作業	参照手順
Sun Installation Assistant を使用してインストールする。	<i>Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)</i>
ローカルの CD/DVD ドライブから SUSE Linux をインストールする。	「 <a href="#">配布メディアからの SUSE Linux OS のインストール</a> 」(24 ページ)
リモートコンソールを使用してリモートの CD/DVD ドライブから SUSE Linux をインストールする。	「 <a href="#">リモートコンソールアプリケーションによる SUSE Linux OS のインストール</a> 」(25 ページ)
PXE サーバーから SUSE Linux をインストールする。	「 <a href="#">PXE サーバーからの SUSE Linux OS のインストール</a> 」(27 ページ)
SUSE Linux ソフトウェアをアップデートする。	「 <a href="#">SUSE Linux オペレーティングシステムのアップデート</a> 」(28 ページ)

## 配布メディアからの SUSE Linux OS のインストール

SUSE Linux には、オペレーティングシステムをインストールおよび構成するための使いやすいグラフィカルインタフェースが用意されています。配布 CD を使用して SUSE Linux をインストールする手順は、ローカル CD/DVD ドライブを使用しても、KVMs を介して接続されたリモート CD/DVD ドライブを使用しても、基本的には同じです。

### 必要なアイテム

- 外部 DVD-ROM ドライブを装着した Sun Blade X6450 サーバーモジュール サーバーモジュールに次のアイテムが必要です。
  - USB で接続したキーボードとマウス
  - モニター
- SUSE Linux メディアベース CD セットまたは DVD セット
- *SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)*

## ▼ SUSE Linux をローカルメディアからインストールする

1. ドングルの USB ポートに USB CD/DVD ドライブを接続します。
2. サーバーモジュールに接続された DVD/CD ドライブに SUSE 配布 CD1 を挿入します。
3. システムの電源を入れます。
  - a. POST 中に F8 キーを押します。  
起動デバイスリストが表示されます。
  - b. 起動デバイスリストから「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。  
サーバーが CD からブートされ、boot: プロンプトが表示されます。
4. 『SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)』の手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。
5. オペレーティングシステムをアップデートします。  
「[サーバー固有のソフトウェアのアップデート](#)」(29 ページ) を参照してください。  
挿入した CD がインストール中に認識されない場合は、『Sun Blade X6450 サーバーモジュールご使用にあたって』を参照してください。

---

## リモートコンソールアプリケーションによる SUSE Linux OS のインストール

この節では、ELOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、サーバーモジュールに SUSE Linux OS をインストールする方法を説明します。

---

**注** – 次の手順を実行する前に、『Sun Blade X6450 Server Module Embedded Lights Out Manager Administration Guide (Sun Blade X6450 サーバーモジュール Embedded Lights Out Manager 管理ガイド)』を参照してください。このドキュメントでは、ELOM サービスプロセッサの Web GUI を使用してコンソールをリダイレクトする方法を詳しく説明します。

---

## ▼ リモートコンソールを使用して SUSE Linux をインストールする

1. SUSE Linux インストール CD/DVD を用意するか、これと同じ ISO イメージを検索します。
2. ELOM サービスプロセッサの Web GUI に接続します。
3. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
4. 「Redirection (リダイレクト)」タブをクリックします。
5. 「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」ボタンをクリックして、JavaRConsole アプリケーションを起動します。
6. CD/DVD のリダイレクトを開始します。

JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニューから CD をリダイレクトする方法は、次の 2 とおあります。

- リモートコンソールの CD-ROM ドライブに実際に CD を挿入する場合は、ドライブに CD を挿入し、「CD-ROM」を選択します。
- リモートコンソールにインストールされている ISO イメージを使用する場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択し、ISO ファイルの場所を指定します。

7. ELOM Web GUI からサーバーの電源を入れます。
8. 次のように BIOS セットアップを行います。
  - a. BIOS のブート中に F8 キーを押して、BBS ポップアップを表示します。  
起動デバイスリストが表示されます。
  - b. 起動デバイスとして「Virtual CD/DVD (仮想 CD/DVD)」を選択します。
9. インストールを続けます。  
インストールの残りの手順については、[表 4-1](#) の SUSE ドキュメントを参照してください。

---

# PXE サーバーからの SUSE Linux OS のインストール

ここでは、サーバーモジュールに SUSE Linux ブートイメージをインストールする最終手順を説明します。

## 開始前のご注意

PXE サーバーから SUSE Linux をインストールするようにサーバーを構成する前に、次の作業を実行する必要があります。

- PXE サーバーに対応するように Linux ネットワークを構成します。SLES 10 CD 1 または SLES9 SP4 の対応する CD の『*SUSE Linux Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide* (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)』を参照してください。
- Linux PXE サーバーに SUSE Linux イメージをインストールします。

## ▼ PXE サーバーから SUSE Linux をインストールする

1. サーバーモジュールを PXE サーバーと同じネットワークに接続し、サーバーモジュールの電源を入れます。
2. POST 中に F12 キーを押します。  
PXE クライアントが PXE サーバーに接続し、DHCP サーバーから IP アドレスを取得します。
3. プロンプトが表示されたら、F8 キーを押して、PXE ブートイメージのダウンロードを開始します。
4. boot: プロンプトが表示されたら、PXE サーバーに SUSE Linux イメージをインストールしたときにイメージに付けたラベルを入力します。  
SUSE Linux サーバーの構成方法は、SLES 10 CD 1 に収録されている『*SUSE LINUX Enterprise Server 10 Installation and Administration Guide* (SUSE LINUX Enterprise Server 10 インストールおよび管理ガイド)』を参照してください。

---

# SUSE Linux オペレーティングシステムのアップデート

ここでは、SUSE オペレーティングシステムのアップデート方法を説明します。

ソフトウェアは常にアップデートされるため、配布メディアに収録されているオペレーティングシステムが最新バージョンでない場合があります。

オペレーティングシステムのインストール後にこの手順を実行します。

## ▼ SUSE Linux オペレーティングシステムをアップデートする

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

---

**注** – YaST はテキストモードおよびグラフィカルモードで実行できます。ここで説明する手順は、そのどちらにも当てはまります。

---

3. ファイアウォールを通してインターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使う必要がある場合はまず、YaST に正しいプロキシ情報を構成する必要があります。
  - a. 左側の「Network Services (ネットワークサービス)」タブを選択し、次に右側の「Proxy (プロキシ)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に正しいプロキシ URL を入力します。

---

**注** – ネットワーク HTTP プロキシサーバー経由でオンラインアップデートサービスを正常に機能させるには、次の追加構成を行う必要があります。

---

- b. YaST ユーティリティを終了し、次のコマンドを入力します。

```
rug set-prefs proxy-url プロキシURL
```

プロキシ URL には、ご使用のプロキシサーバーの完全修飾 URL を指定します (例: `http://proxy.yourdomain:3128/`)。

- c. コマンドが実行されたら YaST を再起動します。

4. Novell カスタマセンターに登録します。左側の「Software (ソフトウェア)」タブを選択します。「Novell Customer Center Configuration (Novell カスタマセンター登録)」を選択して指示に従います。

あとで、Novell カスタマセンターのユーザー名とパスワード、および SUSE Linux のアクティベーションコードが必要になります。

5. 登録したら、「Online Update (オンラインアップデート)」タブを選択して、ソフトウェアアップデートを実行します。

---

## サーバー固有のソフトウェアのアップデート

この節では、Tools and Drivers CD からサーバー固有のソフトウェアをインストールする方法を説明します。

次の手順では、SUSE Linux OS とアップデートがすでにインストールされていることを前提としています。

ファイルはすべて Tools and Drivers CD に収録されています。

次のアップデートが含まれます。

- Sun StorageTek RAID Manager (SSTRM)
- AST2000 ドライバ

### ▼ SSRTM をインストールする

1. 次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/linux/tools/SSRTM/ 名前
```

*名前* は、32 ビット版の場合は x86、64 ビット版の場合は x86\_64 です。

2. 次のコマンドを入力します。

- 32 ビット版の場合：  

```
rpm -ihv StorMan-5.30.i386.rpm
```
- 64 ビット版の場合：  

```
rpm -ihv StorMan-5.30.x86_64.rpm
```

## ▼ AST2000 ドライバをインストールする

1. 次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/linux/drivers/video
```

```
cp lxdrv.tar.gz /tmp
```

```
tar -zxf /tmp/lxdrv.tar.gz
```

2. README.txt に記載されている手順に従って、ドライバをインストールします。

## VMware ESX のインストール

---

この章では、Sun Blade X6450 サーバーモジュールに VMware ESX をインストールする方法を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「VMware のインストールと管理ドキュメント」(32 ページ)
- 「VMware ESX のインストール要件」(33 ページ)
- 「VMware ESX ISO イメージのダウンロード」(33 ページ)
- 「CD-ROM からの VMware ESX のインストール」(34 ページ)
- 「VMware ESX のアップデート」(35 ページ)

Sun Blade X6450 サーバー モジュールは、現在次のバージョンの VMware ESX をサポートしています。

- ESX 3.0.2 アップデート 1 以降
- ESX 3.5

---

**注** – ESX 3.0.2 は、64G バイトまでのメモリーをサポートします。64G バイトを越すメモリーを使用する構成では、ESX 3.5 を使用してください。

---

この章では、VMware Web サイトからダウンロードしたイメージを使用して VMware ESX をインストールする方法について説明します。インストールは、ISO ファイルを使用して完了できます。ISO ファイルを CD に書き込むこともできます。

---

**注** – PXE を使用して VMware ESX をインストールするには、VMware Web サイトの対応するユーザーズガイドを参照してください。

[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html)

---

VMware ESX では、現在 SAS HDD 構成のみがサポートされています。

# VMware ESX 3 インストールの作業マップ

次の表で、インストール手順が本書のどのセクションで説明されているかを確認してください。

インストール作業	関連セクション
システムとインストール処理についての情報を収集する。	「VMware のインストールと管理ドキュメント」(32 ページ)
VMware ESX のインストール要件を確認する。	「VMware ESX のインストール要件」(33 ページ)
ISO イメージファイルをダウンロードし、必要に応じて CD に書き込む。	「VMware ESX ISO イメージをダウンロードする」(33 ページ)
ローカルまたはネットワークに接続された CD または仮想 CD ドライブを使用して、VMware ESX ソフトウェアのインストールを開始する。	「ローカル CD-ROM から VMware ESX をインストールする」(34 ページ)
VMware ソフトウェアをアップデートする。	「VMware ESX のアップデート」(35 ページ)

## VMware のインストールと管理 ドキュメント

サーバーモジュールへの VMware ESX ソフトウェアのインストールを始める前に、[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html) にアクセスし、VMware ESX のインストールに関するドキュメントを必ずお読みください。

- *Virtual Infrastructure 3 製品の概要*
- *クイックスタートガイド*
- *インストールおよびアップグレードガイド*
- *基本システム管理*
- *Virtual Infrastructure Web Access システム管理者ガイド*
- *サーバ構成ガイド*

PXE インストールを準備するには、VMware Virtual Infrastructure 3 の『インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

---

## VMware ESX のインストール要件

サーバーモジュールに VMware ESX をインストールするには、次の要件を満たす必要があります。

- USB キーボードおよびマウスが、サーバーモジュールの USB ポートに接続されている、または Java™ リモートコンソールからアクセスできる。
- モニターがサーバーモジュールに接続されている (Java KVMs を使用する場合は不要)。
- 内蔵 CD-ROM がないため、次のいずれかを選択します。
  - サーバーモジュールに USB 接続された外部 DVD/CD-ROM ドライブ。
  - Java リモートコンソールからリダイレクトされた仮想 CD ドライブ (物理ドライブが接続されていない場合のみ)。
- VMware ESX の CD-ROM または ISO イメージ。

---

## VMware ESX ISO イメージのダウンロード

VMware ESX ISO イメージをインストールするには、まずソフトウェアインストール CD の ISO イメージをダウンロードする必要があります。

### ▼ VMware ESX ISO イメージをダウンロードする

From:

1. ネットワークに接続された CD 書き込み機能を持つシステムを使用して、次の Web サイトから ISO イメージをダウンロードします。

<http://www.vmware.com/download/vi/eval.html>

2. 必要に応じて、イメージを CD に書き込みます。

Java リモートコンソールを使用して ISO イメージを直接マウントする場合は、CD に書き込む必要はありません。

---

# CD-ROM からの VMware ESX のインストール

ここでは、ローカルの CD-ROM または Java コンソールからリダイレクトされた仮想 CD-ROM から VMware ESX をインストールする方法を説明します。このインストール手順を続行する前に、「[VMware ESX 3 インストールの作業マップ](#)」(32 ページ)を確認してください。

## ▼ ローカル CD-ROM から VMware ESX をインストールする

1. CD を CD-ROM ドライブに挿入します。  
ネットワークに接続された仮想 CD または USB で接続した CD-ROM を使用します。

2. サーバーモジュールの電源を入れます。  
サーバーが CD からブートされ、boot プロンプトが表示されます。

boot :

3. 作業するモードを選択します。

- グラフィカルモードにアクセスする場合は、Enter キーを押します。
- テキストモードで操作する場合は、次のように入力します。

**esx text**

4. VMware Infrastructure の『インストールおよびアップグレードガイド』の説明に従って、インストール作業を実行します。

ネットワークに接続されたシステムから、次の Web サイトにアクセスします。

[http://www.vmware.com/support/pubs/vi\\_pubs.html](http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html)

---

# VMware ESX のアップデート

VMware ESX イメージのアップデートがある場合は、次のサイトからダウンロードできます。

<http://www.vmware.com/support>

## 必要なパッチ

Intel Xeon 7200 シリーズ (デュアルコア) CPU を搭載したサーバーモジュールに ESX をインストールした場合は、次のパッチをインストールする必要があります。

- ESX350-200802412-BG (ESX 3.5 の場合)
- ESX-1003524 (ESX 3.0.2 u1 の場合)

パッチのダウンロードおよびインストール方法の詳細については、VMware の Web サイトを参照してください。

[http://support.vmware.com/selfsupport/download/#wlp\\_s3portal\\_page\\_es\\_downloadPatch\\_page](http://support.vmware.com/selfsupport/download/#wlp_s3portal_page_es_downloadPatch_page)



## Solaris 10 OS のインストール

---

この章および参照されている Solaris 10 のドキュメントを使用して、Sun Blade X6450 サーバーモジュールに Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) をインストールしてください。この章には次のセクションがあります。

- 「開始前のご注意」 (37 ページ)
- 「Solaris OS をインストールする準備」 (41 ページ)
- 「GRUB 環境でのサーバーのブート」 (43 ページ)
- 「PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート」 (43 ページ)
- 「配布メディアからの Solaris OS のインストール」 (44 ページ)
- 「シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール」 (45 ページ)

---

### 開始前のご注意

Solaris 10 OS のインストールを開始する前に、このセクションをお読みください。

---

**注** – この章は、x86 プラットフォーム上で Solaris OS を使用方法を熟知した経験豊富なシステム管理者を対象としています。

---

## 最低システム要件

表 6-1 に最低システム要件を示します。

表 6-1 最低システム要件

要件	説明
ハードウェア要件	Solaris OS をインストールする前に、サーバーハードウェアを設置し、サービスプロセッサの初期構成をしておく必要があります。
Solaris OS の最低バージョン	Sun Blade X6450 サーバーモジュールの場合は、Solaris 10 11/06。Solaris 10 を次の Web サイトからダウンロードするか、メディアを注文できます。 <a href="http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp">http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp</a>
インストールに使用するメモリー	4G バイト ~ 64G バイト。
ディスク容量	12G バイト以上。
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。
x86/x64 プロセッサの要件	速度 120M ヘルツ以上の x86/x64 プロセッサ推奨。ハードウェアで浮動小数点を使用できる必要があります。
BIOS	業界標準の x86/x64 BIOS (フラッシュメモリーに記録)。BIOS は、CD メディアまたは DVD メディアからブートできる必要があります。

## その他のソフトウェア情報

- ツールとドライバの CD の内容は Web サイトで入手できます。この CD には、アップデートとその他のソフトウェアが含まれています。Solaris 10 バージョンのアップデートとハードウェアの互換性については次の Web サイトのリンクを参照してください。  
<http://www.sunsolve.sun.com>
- Solaris 10 OS に付属しているインストール用 CD/DVD メディアやドキュメントには、SPARC プラットフォーム版と x86 プラットフォーム版があります。Sun Blade X6450 サーバーモジュールには、x86 プラットフォーム版を使用してください。
- Solaris 10 08/07 については、125370-06、127112-10 の 2 つのパッチを適用することをお勧めします。まず 125370-06 を適用し、次に 127112-10 を適用します。

# インストール方法

Sun Blade X6450 サーバーモジュールには、いくつかの方法で Solaris OS をインストールできます。表 6-2 に、インストール方法と関連するセクションまたはドキュメントを示します。

**注** – Solaris OS には、広域ネットワーク (WAN) を経由したブートなど、その他のインストール方法も用意されていますが、Sun Blade X6450 サーバーモジュールでは、表 6-2 に記載する方法のみがサポートされています。

表 6-2 インストール方法

方法	説明	節またはドキュメント
DVD メディアまたは CD-ROM メディアからインストールする。	DVD または CD-ROM メディアに入っている Solaris のインストールプログラムを使用して、表示される手順に従って 1 台のサーバーにインストールします。	<a href="#">「配布メディアからの Solaris OS のインストール」</a> (44 ページ)
PXE を使用してネットワーク経由でインストールする。	リモートの DVD イメージまたは CD イメージからネットワーク経由で Solaris OS をインストールする場合、または JumpStart インストールで処理を自動化して、複数のシステムにインストールする場合は、PXE インストールを実行する必要があります。 PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、インストールサーバーと DHCP サーバーをセットアップし、ネットワークからブートする各サーバーで BIOS を構成する必要があります。	PXE インストールの設定を行うには、『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86: PXE によるブートに関するガイドライン」の手順に従ってください。 PXE を使ってブートする手順は、「 <a href="#">PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート</a> 」(43 ページ)を参照してください。
シリアルコンソールからインストールする。	PXE ベースのネットワークインストールでシリアルコンソールを使用して Solaris OS をインストールします。	<a href="#">「シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール」</a> (45 ページ)
ディスクレスブートを実行する。	ハードドライブを使用せずに、サーバーモジュールで Solaris OS をブートします。この方法は、PXE ベースのネットワークインストールで使用します。	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の「x86: PXE を使用したネットワーク経由のブートとインストールの概要」

## Solaris 10 関連の情報の場所

この章のインストール手順では、いくつかの Solaris OS ドキュメントを参照しています。Solaris OS のドキュメントは、Web サイト (<http://docs.sun.com/>) で入手できます。

Solaris 10 Documentation Collection のドキュメントのリストを表示するには、上のサイトで「Solaris 10」を選択します。

- Solaris 10 のインストールガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.5>
- Solaris 10 の管理ガイドについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/47.16>
- システムのアップグレードについては、次を参照してください。  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5505>
- トラブルシューティングに関する情報については、次の場所にある「付録 A」を参照してください。<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0323>

Solaris 10 のドキュメントは、Solaris OS ソフトウェアに付属する Solaris Documentation DVD にも収録されています。

## Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

表 6-3 に、Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップを示します。この表には、作業、各作業の説明、および関連セクションまたはドキュメントが示してあります。

表 6-3 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ

タスク	説明	ソース
サーバーをセットアップする。	サーバーハードウェアを設置し、サービプロセッサを構成します。	Sun Blade X6450 サーバーモジュール設置マニュアル(820-5615)
『Sun Blade X6450 サーバーモジュールご使用にあたって』を確認する。	このドキュメントには、Solaris OS ソフトウェアおよびパッチに関する最新情報が記載されています。	Sun Blade X6450 サーバーモジュールご使用にあたって (820-5612)
システム要件を確認する。	使用するサーバーが最低システム要件を満たしていることを確認します。	表 6-1
Solaris OS のドキュメントを特定する。	ソフトウェアに付属する Solaris OS のドキュメントには、インストールについて知っておく必要がある情報の大部分が記載されています。	「Solaris 10 関連の情報の場所」(40 ページ)

表 6-3 Solaris OS を初期インストールする場合の作業マップ (続き)

タスク	説明	ソース
Solaris OS をインストールする。	インストール方法を選択し、手順を確認します。	表 6-2
必要に応じて追加のソフトウェアをインストールする。	Solaris OS には Solaris OS ドライバが付属していますが、その他のソフトウェアは、ツールとドライバの CD からインストールする必要があります	Sun Blade X6450 サーバモジュールご使用にあたって
必要に応じてパッチをインストールする。	パッチは、次の場所にある SunSolve のパッチポータルで入手できます。 <a href="http://www.sunsolve.sun.com">http://www.sunsolve.sun.com</a>	Sun Blade X6450 サーバモジュールご使用にあたって

## Solaris OS をインストールする準備

Solaris OS をインストールする前に、システムに関する情報を収集しておく必要があります。計画および初期セットアップは、DVD または CD からのローカルインストール、Preboot Execution Environment (PXE) ベースのネットワークインストールのどちらを行うかによって異なります。

また、インストールに使用する適切なメディアを入手してください。

メディア	タイトル
DVD	Solaris 10 OS バージョン* DVD
CD-ROM	Solaris 10 OS バージョンソフトウェア CD Solaris 10 バージョン Languages for x86 Platforms CD ツールとドライバの CD
パッチ	パッチについては、『Sun Blade X6450 サーバモジュールご使用にあたって』を参照してください。

\* バージョンをインストールする Solaris オペレーティングシステムのバージョンに置き換えてください。

# インストールの前提条件

Solaris OS をインストールする前に、次の作業を完了しておく必要があります。

1. 使用するシステムが最低システム要件を満たしていることを確認します (表 6-1 を参照)。

Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラを使用する場合は、ローカルの DVD/CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、およびキーボードとモニタが必要です。詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。ハードウェアについては、プラットフォーム用の補足ドキュメントを参照してください。

2. Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (基本編)』

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-7797>) の第 1 章にあるインストール用のチェックリストを参照してください。

システムがネットワークに接続されていない場合は、インストール先システムのホスト名、およびシステムで使用する予定の言語と地域を知っておく必要があります。

システムがネットワークに接続されている場合は、チェックリストを使用して次の情報を収集します。

- インストール先システムのホスト名
- システムで使用する予定の言語と地域
- ネームサーバの IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ゲートウェイの IP アドレス
- ドメインネーム
- ネームサーバのホスト名
- ネームサーバの IP アドレス
- ルートパスワード

3. Solaris OS をネットワーク経由でインストールする場合は、Solaris OS をインストールする前に、PXE ベースのネットワークインストールをセットアップする必要があります。

PXE を使って Solaris OS をインストールするための設定を行うには、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) を参照してください。

---

**注** – USB を使用したりリモートインストールの詳細は、使用するプラットフォームに関するドキュメント (Solaris 10 に付属) を参照してください。USB ベースのインストールがサポートされていない場合は、PXE を使用してください。

---

---

## GRUB 環境でのサーバーのブート

Solaris 10 1/06 以降では、Solaris OS を実行する x86 システムに、オープンソースの Grand Unified Bootloader (GRUB) ブートローダが付属しています。GRUB を使うと、システムのメモリーにブートアーカイブをロードできます。ブートアーカイブには、システムのブートに必要なカーネルモジュールと構成ファイルが含まれています。GRUB については、`grub(5)` のマニュアルページを参照してください。

GRUB 環境で Solaris 10 OS を実行しているサーバーモジュールをブートする方法については、次の URL の『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0378>

---

## PXE によるネットワーク経由でのサーバーのブート

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』も合わせて参照してください。

Sun Blade X6450 サーバーモジュールには、Intel の Preboot Execution Environment (PXE) を使ったネットワーク経由でのブートに必要な PXE の仕様が実装されています。PXE 技術により、サーバーで動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用してネットワーク経由で Solaris OS をブートできるようになります。また、リモートの CD または DVD イメージを使用して Solaris OS をネットワーク経由でインストールすることもできます。さらに、JumpStart シナリオを使ってインストール処理を自動化すると、複数のサーバーモジュールに Solaris OS をインストールする際に便利です。

PXE では、ネットワークを経由して直接ブートします。

### 開始前のご注意

PXE を使用してネットワーク経由でブートするには、まず次の手順を行う必要があります。

- インストールサーバーをセットアップします。
- インストールするサーバーモジュールクライアントを追加します。
- DHCP サーバーをセットアップします。

## ▼ PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートする

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の「PXE によるブートに関するガイドライン」の作業を実行します。

PXE ブートに必要なシステムをすでにセットアップしている場合は、作業マップ (表 6-3) を使用してすべての手順を実行したかどうか確認します。

- PXE を使ってサーバーをネットワーク経由でブートします。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の手順に従い、画面に表示される指示に沿って作業を進めます。

BIOS が起動したら、F12 キーを押して、PXE サーバーからネットワーク経由でブートします。

---

## 配布メディアからの Solaris OS のインストール

CD または DVD を使って、サーバーモジュールに Solaris OS をインストールするには、ここで説明する手順に従います。ここでは、Solaris インストールプログラムを使用した対話式インストールについて説明します。

Solaris 10 OS のインストール用メディアに収録されているプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用するか、コンソールから文字列を入力して実行します。GUI およびコマンドラインインターフェース (CLI) で、インストールウィザードの画面に従って OS をインストールすることができます。

### 開始前のご注意

『Solaris OS をインストールする準備』(41 ページ) で説明した作業を行います。

## ▼ 配布メディアから Solaris OS をインストールする

1. システムの電源をオフにしてから再投入してブートします。  
サーバー BIOS が、DVD または CD からブートされます。
2. Solaris 10 OS の DVD または CD を、サーバーモジュールに挿入します。
3. 『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』  
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0314>)の第 2 章にある「x86: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」の手順に従います。  
手順 4 から始めてください。プロンプトが表示されたら、構成に関する質問に回答しながらインストールを完了します。  
画面のデフォルト値をそのまま使用すると、ハードディスク全体のフォーマット、自動レイアウトのファイルシステムの使用、およびすでに選択されている一連のソフトウェアのインストールを実行できます。インストールをカスタマイズして、ハードディスクのレイアウトの変更、Solaris の fdisk のパーティションの変更、およびインストールするソフトウェアの選択を行うこともできます。

---

## シリアルコンソールによる Solaris OS のインストール

Solaris のテキストインストーラを使用すると、Solaris OS インストールプログラムの指示に従って端末またはコンソールウィンドウ内で情報を入力することができます。シリアルコンソールから PXE を使って、Solaris 10 OS をサーバーモジュールにネットワーク経由でインストールする場合は、この手順に従います。

### 開始前のご注意

シリアルコンソールをセットアップする前に、次のシステムを、PXE ベースのネットワークインストールに対応するようにセットアップする必要があります。

- インストールサーバー
- DHCP サーバー

これらのシステムの設定方法は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>)を参照してください。

## ▼ シリアルコンソールを使って Solaris OS をインストールする

---

**注** – 手順 1 ~ 3 については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) を参照してください。

---

1. 端末をサービスプロセッサのシリアルポートに接続します。  
端末には、VT100、ターミナルエミュレータを実行する PC、またはターミナルサーバーを使用できます。
2. 端末の受信速度を 9600 ボーに設定します。
3. インストール先のサーバーに x86 クライアントを追加し、インストール時に使用する起動デバイスを指定します。  
インストールクライアントのセットアップ時に起動デバイスを指定すると、インストール時に Device Configuration Assistant でこの情報を入力する必要があります。

この例では、共通の値として次の値を使用します。

- クライアントの MAC アドレス: 00:07:e9:04:4a:bf
- サーバー IP アドレス (GRUB のみ): 192.168.0.123
- クライアントのマクロ名 (GRUB のみ): 01000039FCF2EF

オペレーティングシステムのバージョン別のコマンドを次の例のように実行します。

- Solaris 10 3/05 システムの場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "console=ttyb" \
  -b "bootpath=/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1" i86pc
```

- Solaris 10 1/06 以降 (GRUB ブート) の場合

```
# cd /export/boot/Solaris_10/Tools
# ./add_install_client -d -e "00:07:e9:04:4a:bf" \
  -b "consolatory" i86pc
# dhtadm -A -m 01000039FCF2EF \
-d ":BootSrvA=192.168.0.123:BootFile=01000039FCF2EF:"
# pntadm -f 01 -A $CLIENT_IP -i 01000039FCF2EF \
  -m 01000039FCF2EF $CLIENT_NET
```

---

**注** – コマンドやオプションの詳細は、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

---

4. サービスプロセッサ CLI に Administrator としてログインします。
5. 次のコマンドを入力して、シリアルコンソールを起動します。

```
start /SP/AgentInfo/console
```

6. サーバーモジュールをブートします。

『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』  
(<http://docs-pdf.sun.com/819-7807/819-7807.pdf>) の手順に従います。  
プロンプトが表示されたら、BIOS で F12 キーを押して PXE を使用してブートします。

システムがインストールされたら、ログインして `eeprom` コマンドを実行し、`bootenv.rc` を次のように変更します。

```
eeprom input-console=ttyb
```



# 索引

---

## A

- AST2000 ドライバ
  - RHEL へのインストール 18
  - SUSE へのインストール 29

## C

- CD-ROM からの VMware のインストール 34

## E

- ESX Server バージョン 31

## G

- GRUB 環境でのブート 43

## P

- PXE インストール
  - Red Hat Enterprise Linux 17
    - PXE サーバーからインストール 17
  - Solaris 10 43 ~ 44

## R

- Red Hat Enterprise Linux
  - PXE サーバーからの PXE インストール 17
  - 前提条件 14
- Red Hat Enterprise Linux のインストール
  - PXE インストール 17

## S

- Solaris 10 オペレーティングシステムのドキュメント 40
- Solaris 10 のインストール
  - PXE インストール 43 ~ 44
  - 概要 40
  - シリアルコンソールからインストール 45 ~ 47
  - 準備作業 41 ~ 42
  - メディアからインストール 44 ~ 45
- Sun Installation Assistant
  - 概要 9
  - 説明 7
  - 特長と利点 8
- Sun Installation Assistant (SIA) 12, 22
- Sun Installation Assistant (SIA) を使用したオペレーティングシステムのインストール 7
- Sun StorageTek RAID Manager (SSTRM)
  - RHEL へのインストール 18
  - SUSE へのインストール 29
- SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストール 22

## U

- USB デバイスへの接続 6

- V**  
VMware、CD からインストール 34  
VMware ESXServer バージョン 31  
VMware のインストール 31  
    作業マップ 32  
VMware のインストール、概要 31
- Y**  
YaST ユーティリティー 28
- あ**  
インストールの準備作業、Solaris 10 41 ~ 42  
オペレーティングシステムのインストール  
    Red Hat Enterprise Linux 11 ~ 17  
    Solaris 10 37 ~ 47  
        インストール方法 39  
        最低システム要件 38  
        作業マップ 40  
    SUSE Linux Enterprise Server 22  
    概要 2 ~ 4
- か**  
コンパクトフラッシュ、OS のインストール 8
- さ**  
作業マップ、VMware のインストール 32  
シリアルコネクタ 6  
シリアルコンソールからインストール、  
    Solaris 10 45 ~ 47  
前提条件、Red Hat Enterprise Linux メディア  
    インストール 14
- は**  
パラレルコネクタ 6  
表記上の規則 ix  
ファイアウォール 28  
ブート、GRUB 43  
プロキシサーバー 28
- ま**  
メディアからインストール、Solaris 10 44 ~ 45
- ら**  
リモートコンソールからインストール、  
    Red Hat Enterprise Linux 15, 26